

2016年10月17日刊行予定

Kindle版電子書籍

言語教育の「商品化」と「消費」を考える

シンポジウム 報告集

言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム運営委員会・編

本報告集は、2016年7月16・17日に香港大学にて行われた「言語教育の『商品化』と『消費』を考えるシンポジウム」(つながろうねっト・言語文化教育研究学会・香港大学日本研究学科日本語プログラム共催)の成果をまとめたものである。久保田竜子氏・神吉宇一氏の基調講演および対談のほか、発表者・助成金受給者達による21本の論文・報告、シンポジウム運営委員会による運営の振り返りや裏話も収録。シンポジウムでの熱い議論がここに甦る！

目次:

- 【基調講演】消費としての学び(久保田竜子)／ことばの教育、「商品化」、「消費」(神吉宇一)
- 【対談】(久保田竜子×神吉宇一)
- 【特別セッション】「活字を身体で言葉にしよう！」(佐次えりな)
- 【教材セッション[招待]】考える活動をベースにした授業の作り方(小山悟)／『日本語でインターアクション』(武田誠)
- 【パネルディスカッション】一つの正解を求めない対話活動の意味(細川英雄・武一美・新井久容・塩谷奈緒子)
- 【口頭発表】言語道具主義の後に何があるのか(加藤鈴子・中山亜紀子・倉地暁美)／貿易協定と移民の商品化(大友瑠璃子)／教育をめぐる新聞記事の批判的談話研究(名嶋義直)／言語教育の商品化に伴う教育側の進化(李暁燕・橋本敬)／ポーランドにおける近年の日本語教育環境の変化と教育界の対応(坂本龍太郎)／「モニター」としての参加による経験学習と日本語教育実習のあり方(三井晶子・山本裕子)
- 【教材セッション】中国の大学日本語教育における「フリップ」の活用(駒澤千鶴・菅田陽平)
- 【ポスター発表】日系企業の海外人材としての在香港日本語学習者とビジネス日本語教育(沼島朝美)／日本語教師が関与すべき、多文化社会を創りそこで生きる「力」についての一考察(有田佳代子)／ビジネス日本語の構成要素(古川明子)／Web教材の開発コストとアンパイドワーク(中川健司・角南北斗・斎藤真美・橋本洋輔)／「私は〇〇語学習者？」(佐野香織)／雑談の聴解教材化の課題(山森理恵)

言語教育の「商品化」と「消費」
を考えるシンポジウム 報告集

The Proceedings of the Symposium on Commodification and
Consumption of Language Education



言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム 運営委員会 編

定価：250円（予定）

ご購入方法:

本報告集はKindle版電子書籍です。

Amazon(<https://www.amazon.co.jp/>)

からお買い求めください。

お問い合わせ: meeting@alce.jp

この他、【シンポジウムのふりかえり】【助成金受給者報告】も収録。